

# 岡山県ストーマ保有者災害対策の会による ストーマ保有者支援ネットワークの 拡充を目指した活動

寺石 文則 氏

岡山大学病院 消化管外科 講師



## 目的や背景

平成23年3月、東日本大震災時にストーマ保有者への対応が混乱したことがきっかけとなり、災害時におけるストーマ保有者へのネットワークづくりの重要性が認識された。われわれは早い時期から**ストーマ保有者への災害時支援ネットワーク(図1)**を構築するための活動を行ってきた。

## 方法

平成25年5月、岡山ストーマリハビリテーション研究会を母体とする「岡山県ストーマ保有者災害対策の会」(以下、本会)を設立した。岡山県内のストーマ保有者の現状を把握し、県内の医療機関や公的機関と連携しながら、災害時にストーマ保有者に対してスムーズに支援が行えるようなネットワークづくりを進めた。

## 成果

岡山県内のストーマ保有者は約4000人であった。まず、県内の10施設を**災害時介在拠点病院(図2)**とし、災害時のストーマ装具の供給に関する連携体制を確立した。

次に、介在拠点病院を周知してもらうための**岡山県災害時ストーマ保有者お助けマップ**を作成し、県内の医療機関や公的機関に配布し、ストーマ保有者の手元に届けた。続いて、岡山県ストーマリハビリテーション研究会ホームページ上に本会会員限定の掲示板を作成し、災害時の連絡手段とした。さらに、**ストーマ保有者お助けバッチ**を作成し、災害時にバッチ装着者がストーマ保有者の支援者とわかるようにした。

平成28年7月の西日本豪雨災害時には、本会が構築した災害時支援ネットワークが機能し、ストーマ装具に関する情報を収集・一元化し、ストーマ保有者への装具の

供給がスムーズに行えた。

## 意義

本会活動は平成28年7月の西日本豪雨災害時に一定の成果を挙げた。今後の課題として、

1. ストーマ保有者および岡山県内の自治体への広報活動
2. 関連学会や研究会での活動内容の報告
3. 啓蒙活動の継続
4. 本会会員数の増員などを挙げ、活動のさらなる拡充を図りたい。



図1



図2